

## 活動スケジュール (1/2)

※時期・内容は変更となる場合があります。

回	開催日	開催内容等
1	6月頃 ※開催順は変更になる可能性があります。  ※事務システム分科会と 共催検討中	<p><b>【開催テーマ】</b> AIとの共生社会における大学教育について</p> <p><b>【開催概要】</b> AIの活用がさらに進み、人とAIが共生する未来社会を生き抜くためのAI活用人材の育成が、大学教育においても重要なテーマとなっています。一方でAIの利便性だけに目を向けるのではなく、リスクや課題も踏まえた活用が求められています。AIの利活用に必要な知識やスキルだけでなく、リスクや課題を理解した上で適切に判断・活用できる力をいかに育成するかを考えます。</p> <p><b>【参加してほしい方】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学におけるAI教育やAIリテラシーに関心のある方。</li> <li>・AI人材育成の企画・実施に携わっている、または検討している方。</li> <li>・AIの利活用に伴うリスクや課題を大学教育の中でどのように扱うべきかに悩んでいる方。</li> </ul> </p> <p><b>【参加者が得られる成果】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIとの共生社会を生き抜く人材育成教育を学ぶ。</li> <li>・AI時代において、大学教育で何を扱うべきかを学ぶ。</li> <li>・自大学のAI教育や人材育成の取り組みを考える上でのヒントや気づきを得る。</li> </ul> </p>
2	10～11月頃 ※開催順は変更になる可能性があります。	<p><b>【開催テーマ】</b> AI活用が切りひらく未来のキャンパスを探る</p> <p><b>【開催概要】</b> AIが「支援する存在」から「共に働く存在」へと変化したとき、大学の業務や教育・研究活動はどのように変化していくのか。フィジカルAIや自律型マルチAIエージェントといった最新技術を取り上げ、実現の可能性だけでなく、あえて未来の姿を描くことで、次世代のキャンパスと情報システムについて考えます。</p> <p><b>【参加してほしい方】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルAIや自律型マルチAIエージェントといった新しいAIの動向に関心のある方。</li> <li>・新しいAI技術を活用した大学業務や教育・研究の姿について考えたい方。</li> <li>・AIと人間が共に働くことを前提とした、次世代のキャンパスや情報システムの在り方に興味のある方。</li> </ul> </p> <p><b>【参加者が得られる成果】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルAIや自律型マルチAIエージェントといった新しいAIの動向について理解を深める。</li> <li>・新しいAI技術を活用した大学業務や教育・研究の将来像について、未来の姿から考える視点を得る。</li> <li>・AIとの共生社会を前提とした次世代のキャンパスや情報システムについて考えるためのヒントを得る。</li> </ul> </p>

## ➤ 活動スケジュール (2/2)

※時期・内容は変更となる場合があります。

回	開催日	開催内容等
3	3月頃 ※開催順は変更になる可能性があります。	<p><b>【開催テーマ】</b> AIを活用し学生生活の質を向上する</p> <p><b>【開催概要】</b> AIを活用し、学生生活の様々な場面で個別最適化された支援を行っている事例を取り上げ、AIを学生支援に組み込む際のデータ活用の考え方、人による支援の在り方など、今後の学生支援とキャンパスDXのあり方について考えます。</p> <p><b>【参加してほしい方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生生活にAIを活用する方法を検討したい方。</li><li>・学生支援や学生サービスにAIを活用する方法を検討したい方。</li><li>・AIエージェントや統合データ活用に関心のある方。</li><li>・学生と教職員をつなぐ次世代のキャンパスシステムについて考えたい方。</li></ul> <p><b>【参加者が得られる成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生生活や学生支援へのAI活用の最新事例を学ぶ。</li><li>・AIエージェントによる個別最適化支援の可能性と課題を理解する。</li><li>・AIと対人支援を組み合わせた、今後の学生支援モデルを検討する視点を得</li></ul>